

## 「教職課程センター講座」の取組 ～教師として必要な資質・能力の育成を目指して～

中里竹男

### 要 旨

教職課程センターでは、教職を目指す学生のために「教員養成塾」「教職勉強会」等の講座を設けている。また教員採用試験対策として、志願書添削、面接指導や小論文指導等を実施している。さらに、卒業後すぐに教職に就く予定の4年生を対象に「実践授業勉強会」を実施し、自信と意欲をもって教育活動に当たることができるように支援している。これらの取組を通して、教師としての心構えを養い、教師に必要な知識等を獲得させるとともに指導力や実践力を身に付けさせ、教育現場で活躍できる人材の育成を目指している。

キーワード：「教員養成塾」「教職勉強会」「実践授業勉強会」教員採用選考試験対策

### 1. はじめに

教員の長時間労働等、教員の過酷な労働環境が社会問題化し、教員数の不足や教員の志願者数の減少などに少なからず影響を与えている。国は「教員の働き方改革」を推進することでこの問題を解決につなげたいと考えているようであるが、なかなか進んでいないのが現状である。

このような状況の中、教師という仕事に魅力ややりがいを感じ教職を目指している学生たちには、心から拍手を送りたい。そして、学生時代に少しでも多くのことを学び、学校現場において明るく元気で意欲的に教育活動に専念し、子どもたちの笑顔をたくさん作ってもらいたいと切に願っている。

そこで、本学の教職課程センターでは、教員を目指す学生のための講座等を用意し、教員に必要な資質・能力を身に付けさせるとともに教員採用試験に向けての支援を行っている。ここでは、その取組の内容と成果や課題についてまとめること

にする。

### 2. 教職課程センター講座について

#### 2.1 教員養成塾

教員養成塾は、1～3年生が対象の講座で、1年生と2、3年生を分けて実施している。1年生は秋学期13回で、教育の基本となることを学びながら教師としての心構え等について考えさせる内容である。また、2、3年生は春学期9回で教育法規と学習指導要領の基本について学び、秋学期13回では、毎回テーマを決めそのテーマについてのレポートを持参させ、それをもとにして各自に発表させるところで必要な知識を主体的に獲得できるようにしている。レポートのテーマのいくつかを紹介すると、「子供たちに求められている資質能力とはどのようなものか」、「これからどのような学校が求められているか」、「教員に求められている資質・能力はどのようなものか」、「不登校・いじめへの対応について」、「障害のある子供たち

をいかに支援すればよいか」といったものである。これらは教師として理解しておかなければならない内容であり、教員採用試験でも問われる内容でもある。なお、レポートを作成する際に参考となる資料（関係法規、中央教育審議会答申、文部科学省や県教育委員会の通知等）を示している。

## 2.2 教職勉強会

教職勉強会は、4年生が対象の講座で春学期に9回実施している。教員採用試験が間近に迫ってくる時期でもあり、その内容は、今までに得た知識を再確認しながら、過去に出題された試験問題等を活用し演習問題に取り組むなど、教員採用試験に向けての対策的な要素が多いものである。具体的には、学習指導要領に示された「育成を目指す資質能力」やそれらをどのように育成するのか、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」をもとに「これからの学校教育について」のポイントの確認、改訂された生徒指導提要の主な内容についてなどである。

## 2.3 実践授業勉強会

実践授業勉強会は、4年生が対象の講座で秋学期に13回実施している。この講座は教員採用試験の結果が出た後の講座であり、本採用または臨時採用等として卒業後すぐに教師という仕事に就く4年生が、自信をもって教壇に立てるように、授業研究を通して実践力を養うものである。具体的には、「言語活動の充実」「主体的・対話的で深い学びの授業」「ICTの活用」等毎年テーマを決め、そのテーマに沿った学習指導案をもとにした模擬授業を实践させ、授業後の研究協議を通して、授業力を高めていくものである。

また、講座の最後に、「教職体験発表会」を開催している。これは、4年生が、4年間の教職課程や教員採用試験に向けての取組について発表す

る場であると同時に、1～3年生に教育実習や教員採用試験に向けての心構えや体験談等を伝える場である。この発表会は、4年生が全て企画・運営を行っている。その中で、チームとして1つのものを創り上げる体験をさせるなどして、チームワークやの大切さや達成感を味わいながら、教員として必要な資質・能力を身に付けさせている。

## 2.4 春季集中講座

春季集中講座は、3年生を対象に3月に4日間で実施している。新年度に4年生になるとすぐに教員採用試験の応募が始まる。応募書類には志願理由等を記載する必要がある、そのための指導や論作文の書き方、面接の受け方等の教員採用試験対策と学科試験の「教職教養」で問われる「教育法規」や「教育課程」等の基本的な内容の確認を行いながら教員採用試験に向けてのモチベーションを高めている。

## 2.5 夏季集中講座

夏季集中講座は、1～3年生を対象に9月に4日間にわたり実施している。本年度の内容は、「教育史、教育心理」「学習指導要領」「教育法規」「生徒指導」である。1～3年生が受講しているため、1年生にとっては目新しいことばかりで理解することが難しく時間もかかるが、3年生にとってはすでに学んだことがある内容が多いなど、既習の知識に差がある。しかし、講座の内容は基本的な事項を扱い、基礎的な知識の定着を図るようにしている。また時には講師の教員時代の経験談を交えながら、教師の仕事の難しさ、魅力ややりがいなどについても伝えている。

## 3. 教員採用試験に向けて

### 3.1 志願書の添削

教員採用試験の応募書類に記載する志望動機や

志願理由の書き方については、春季集中講座の中で基本的なことを確認している。それをもとに、実際に受験する地方自治体の出願書類に下書きしたものを添削する。一人一人の添削する時間を設定し、「教師を志したきっかけは何か」「なぜ教師になりたいのか」「どんな教師を目指しているのか」などについて一人一人と対話をしながら、自分の考えを整理させ文章化させていく。何度も書き直しをさせる中で、自分の気持ちが相手に伝わる表現やインパクトのある表現を考えさせる。これらの問いに対する自分なりの答えは、教師になるための根幹となるものであり、面接試験や小論文にも生かせるものとなる。

### 3.2 個人面接・集団面接の指導

教員採用試験の1次試験または2次試験において、個人面接または集団面接は必ず実施されている。

個人面接の評価観点は、埼玉県の場合、(1) 意欲・情熱、(2) 倫理観、(3) 明朗性・協調性、(4) 理解力・判断力、(5) 使命感・経歴の5点である。また、集団面接の評価観点は、(1) 積極性、(2) 意欲・情熱、(3) 論理性、(4) 表現力、(5) 責任感 の5点である。

面接の指導内容は、入室退室の仕方や礼の仕方、座る時の姿勢などの所作から面接官とのコミュニケーションの取り方などについて指導した後、実際に過去の教員採用試験の面接で質問された内容を中心に、本番の面接試験と同様に2名の面接官で練習を実施する。また、個人面接の場合、面接練習の順番を待つ学生には、客観的な立場で面接試験を観ることで多面的に気づいたことを自分の面接試験に生かせるように、他の学生の面接練習を見学させる。

終了後は、自分で振り返りをさせるとともに見学していた他の学生から気づいた点等を伝えさせ、最後に2名の面接官から、評価の観点を踏ま

えた指導助言を行う。

### 3.3 場面指導の指導

場面指導は、具体的な場面を想定し、どのような指導をするのかを問うものであるが、個人面接や集団面接のなかでも問われる場合がある。その場合の場面指導については面接練習の中で指導している。また、試験官を生徒に見立てて実際に行わせる場面指導については、過去に出題された課題を用いて練習している。埼玉県の場合、小中学校教員の採用試験の個人面接の際に場面指導の時間を最初に設けている。

教育実習以外に学校という教育現場での経験が少ない学生たちにとって、それぞれの場面に応じた指導をすることは大変難しいことであるが、より実践的な指導ができるように練習を重ねている。

### 3.4 集団討論の指導

集団討論は、8人ほどのグループで与えられたテーマで討論をする試験であるが、2次試験において実施されることが多い。この試験の評価の観点は、埼玉県の場合、(1) 積極性、(2) コミュニケーション能力、(3) 貢献度、(4) 表現力、(5) 誠実さ の5点である。

集団討論の練習は人数が揃わないとできないわけだが、埼玉県では個人面接と小論文の2次試験日と別日に集団討論の日程が組まれているため、集団討論の練習を実施する頃には1次試験の結果が発表されており、1次試験の通過者が集団討論の練習に参加することになる。したがって、できるだけ多くの学生が1次試験を通過し、集団討論の練習に参加する人数を確保することが必要になる。本年度は、幸いに1次試験を通過した学生も多く、また、臨時的任用教員として働いている卒業生も数名参加してくれたため、ある程度的人数が確保され、違ったメンバーで集団討論の練習を

実施することができた。

実際の練習は、過去に出題された課題や出題が予想される課題を提示し、それについて自分の意見を3分間でまとめさせ、その後40分間で討論を行わせ、最後にグループとしての意見をまとめさせるといった本番と同じ形式で実施している。

終了後に、各自振り返りを行わせ発表させる。その後、評価の観点を踏まえて、指導助言を与えている。

### 3.5 小論文の指導

小論文の指導は、まず「小論文の書き方」について基本的なことを確認している。その後、各自に過去の論題について小論文を作成させ、個別に添削指導を行っている。

800文字程度の小論文とはいえ、論文を書いた経験がない学生にとっては、小論文を書くことへのハードルは高く、個別に丁寧に指導する必要がある。1つの論題で何度も書き直しをさせる中で、自分の考えを明確にさせ、それを読み手に分かりやすくしかも印象深く伝える表現の仕方を考えさせる。1つの論題について4, 5回書き直させることで、完成度の高い小論文に近づく。合格点以上の小論文が書けたら別の論題に移る。3, 4つの論題で合格点以上ものが書けるように指導を繰り返す。

このような取組を通して、論題を正しく捉え、課題を解決するための具体的な策を考えさせることで、自分の考えを明確にさせるとともにより深いものとさせる。また自分の考えを読み手に分かりやすく伝わるように簡潔明瞭な表現を心がけさせる。このことは、面接試験の返答に大いに役立つものとなる。

## 4. 成果と課題

### 4.1 受講学生の声

実際に教育課程センターの講座等に参加し、教員を志す学生の声をいくつか紹介する。

・教職教養に関しての知識を何一つ知らなかったが、勉強会を通じて自信がつくほど理解することができた。

・教員採用試験のエントリーシートを、先生の添削やアドバイスをもとに自分なりの言葉で書くことができた。また、自分の中で「理想の教師像」を確立することができた。

・何度も様々なテーマで書いた小論文をその都度添削していただき、自分なりの小論文のフォーマットや書き方を確立することができた。

・教員採用試験に向けてということだけでなく、教員になってからも必要な知識をたくさん得ることができた。

・毎日の面接練習で、自分自身の考えを発言できるようになった。また、自分がどのような教師になりたいのかを一から考えるきっかけになり、教員になりたいという気持ちが増した。

・学年を越えての交流の機会もあり、先輩を参考に勉強へのモチベーションを高められた。

・同じ目標に向かって頑張っている仲間と学習を行うことで、モチベーションが高まった。

### 4.2 成果と課題

成果については、受講学生の声にあるように志願書の添削や面接指導等を通じて、「志望動機」や「志願理由」を明確にさせることで教師としての礎を築くことができた。また、様々な講義等を通じて教師として必要な基本的な知識を身に付けさせ、教員採用試験に対応できる力を養うことができた。さらに、場面指導の練習や小論文の添削等を通して、指導力や実践力を育成することができた。また、学部や学年の枠を超えた仲間と切磋

琢磨しながら自分を磨くことができたことも大きな成果である。

今後の課題としては、各講座の内容をさらに充実させるとともに、教員採用試験の実施時期等の変更等に対応した指導計画の立案も必要である。

## 5. おわりに

城西大学にお世話になり3年目になる。その間、教員を目指す学生たちと関わってきたが、彼らは、教職に対して前向きに努力する姿勢と教師になりたいという強い気持ちを持っている。そのような気持ちに触れる時、微力ながら彼らのためにできることをしてあげたいと思う。そのためには私自身も学び続け、自信と誇りをもって教壇に立てる人材の育成を目指したい。